



手紙、貰ってくれてありがとうございます。

ちょっと長いけど、最後まで読んでくれたら嬉しいです。

告白してしまった日から、

どうしたら元のように仲良くなれるか考えていました。

たとえ結ばれなくても、あなたに嫌われなくなかったから。

でも、気づいたんです。

本当は元に戻りたいんじゃないくて、

先に進みたかったんだって。

押さえ込んでいた気持ちが、

たまたまあの場面で爆発しただけで、

いつかはきっと伝えていたと思います。

あなたにとっては、突然の告白だったかもしれないけど、

私にとっては、三年越しの片想いでした。

三年前の私は、

高校生になったものの特にやりたいこともなく、

友達も作らず部活にも入らず、

ひたすらゲームばかりしていました。

中学の時、周りとは趣味も服装も全然合わなくて

衝突を繰り返していた日々には疲れた私は、

どこか常に何かを諦めてしまうような人間になってしまい、

リスクのあることは何もしたくなかったのです。





関わらなければ何も起こらない。

その孤独が、心地よかった。

けど、私は出会ってしまったんです、あなたと。

話した回数は指で数えるほど…。

でも、ずっと、ずっと、目で追っていました。

いつか話しかけよう。今日は頑張ってみよう。

そう思っても、いざその瞬間になるとできなくて…。

また次にしよう。今度でいいや。

自分に言い聞かせている内に、三年の時間が過ぎてしまいました。

卒業式の日、最後のチャンスだと思ってあなたを探したけど、
中々見つからなくて。

駆け回ってやっと見つけた時には、

他の子と楽しそうに話すあなたがいました。

……何もかも、遅すぎました。

隣にいるのが、私だったらよかったのに。

でも話しかけられてもない私は、ただのモブで。

あなたの近くにいる資格なんてなかった。

帰り際、時音神社に寄りました。

神様しか私を慰めてくれないと思ったんです。





涙を溜めながら、最低なお願い事をしました。
もう一度、青春をやり直したい。
そんなの、叶うはずないのに。

もしたら私、入学式の日に戻ってきてしまったんです。
タイムリープ……してしまいました。
ゲームやアニメでは聞いたことがあったけど
まさか自分が当事者になるとは思ってなかったです。

妄想の話と思われるかもしれない。
それでも真実を伝えたいと思いました。

私、あなたのことが好きです。
人生で私の心をここまで動かしてくれた存在は他にいません。

…もし叶うなら、恋人になりたい、と思います。
(最初はお試しでもいいので…)

私の好きって気持ち、受け取ってくれたら嬉しいです。



夏藤なゆ

